

拝啓 時下ますますご清祥の事とお慶びを申し上げます。

この度、10月8日から11月7日まで、武蔵野美術大学「Gallery of The Fine Art Laboratory」にて、

門田訓和「whereabouts」展を開催いたします。

ぜひご高覧いただきたく、ご案内申し上げます。

門田訓和 「whereabouts」

会期：2015年 10月8日（木）－11月7日（土） 11：00－17：00 日・祝祭日休廊

※ 10月25日[日] は芸祭期間中の為閉廊。 10月30日[金] 10月31日[土] 大学休講の為閉廊

会場： Gallery of The Fine Art Laboratory

〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736 武蔵野美術大学 2 号館 1 階

主催： Gallery of The Fine Art Laboratory（彫刻学科研究室企画 問い合わせ先：042-342-6055 彫刻学科研究室）

※ 10月8日（木）14：40 よりgFAL向かいのFALにてアーティストトーク、18：00 よりオープニングパーティーを行ないます。

【作家略歴】

門田 訓和／Kunikazu Kadota

1985 年 岐阜県生まれ

2009 年 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業

2012 年 京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

＜展覧会歴＞

2010 年 グループ展「NOTE」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

2011 年 個展「OPEN STUDIO」Sitter Werk, サンクト・ガレン, スイス

2012 年 個展「before that」ARTZONE, 京都

2013 年 グループ展「Six Ways to Sunday #04」Peep Hole, ミラノ, イタリア

2015 年 グループ展「藪の中」Galerie Aube, 京都

2015 年 グループ展「これからの、未来の途中」京都工芸繊維大学美術工芸資料館

2015 年 グループ展「群馬青年ビエンナーレ 2015」群馬県立近代美術館

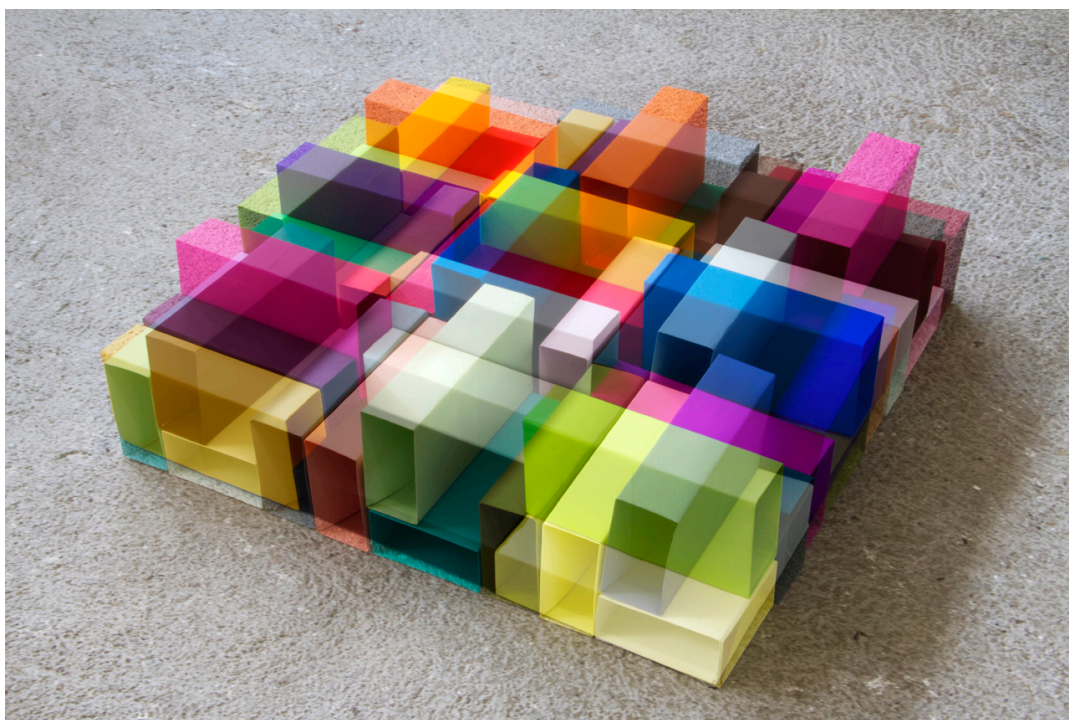
＜アーティスト・イン・レジデンス＞

2011 年 Sitter Werk, サンクト・ガレン, スイス

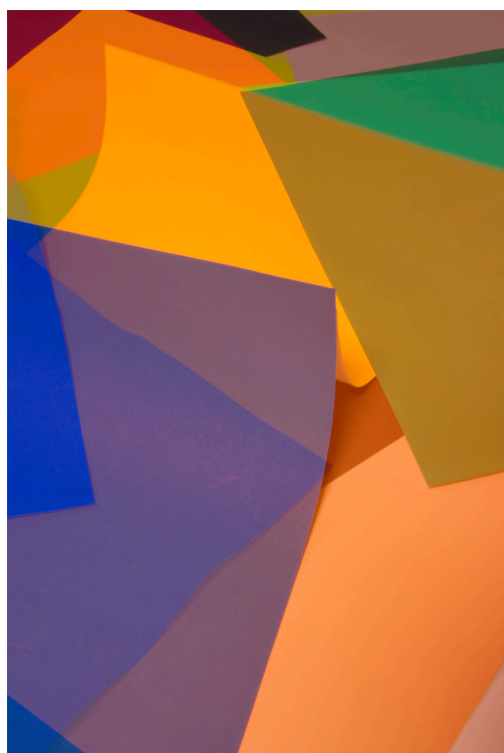
【展覧会に寄せて】

それにしても彫刻とはなんだろうか。たしかに今日の前にあるのは絵画の様相を見せているし、写真の作品として語られてもおかしくはないだろう。しかし沸き上がってくる疑問はそのどちらにも向かわない。作者がここで何をやろうとしているのか、どこに向かおうとしているのかに眼差しを向けようとしたとたんに、妙な世界に引っ張りこまれてゆくのだ。それはある行為のプロセス、敢えて言えば「不安定」に感じる物体を正確に伝えるという意思に貫かれているように見える。それは彫刻をどのように見ていいのか戸惑う感覚に他ならないだろう。絵画のような正面性でも映像のように連続した時間の流れではなく、分裂した視点から生まれるある種の時間の感覚。つまり触覚について語ろうとする時に起きる困難さだ。コンスタンチン・ブランクーシやメダル・ド・ロッソなど、写真を作品の自己批評的な展開のプロセスに取り込んだ作家は、過去から現在まで多く見受けられるが、門田の特徴は所謂彫刻の在り方から意識的に距離を置いている事だ。彼はこれまでに写真を使った実験を繰返してきたが、近作で特徴的に見られるのは際立った彩度の色彩による差異の表現だろう。これは分裂した視点の中から異なる次元に移動するための触媒のような働きをしているのではないだろうか。門田の近作は、色彩という彫刻とは遠い属性に目を向け、触覚の豊かさを刺激する。

武蔵野美術大学彫刻学科教授 伊藤誠



color paper 2011 70cm x 110cm c-print



color paper 2012 60cm x 90cm c-print



color paper 2011 180cm x 120cm c-print



展示風景 Galerie Aube（京都） 2015

gallery FAL(gallery of The Fine Art Laboratory)／gFAL（ジーファル）は2002年に発足した武蔵野美術大学内の展示スペースです。油絵研究室を企画母体として、日本画学科研究室、彫刻学科研究室、版画研究室の協力により、展覧会の企画を行なっています。校舎新築工事のため、2004年から一時活動を中止していましたが、本年度から学内の新たなスペースにて企画運営を再開いたしました。武蔵野美術大学の卒業生を中心とした有望な若手アーティストに発表の機会を与え、開かれた大学内ギャラリーとして機能していくことを目的としています。gFALはラボラトリー(実験室)という名が示すとおり、従来のギャラリーの枠におさまらない、参加アーティスト、企画者、観客、それぞれによる実験の場でありたいと考えています。今後、より広い視野にたったgFALの活動にご期待下さい。

Gallery of The Fine Art Laboratory／gFAL